

西東京市議会議員 納田さおり

市議会レポート

令和4(2022)年8月発行



コロナ7波
物価高騰

厳しい時代だからこそ

思考停止しない支援策を！

一律給付とばらまきの相関関係

7月22日第三回臨時会が開催され、物価高騰対策予算が審査されましたが、福祉・子育て分野には実費支給、商工業分野には一律給付と支援の方法に格差がある事が解りました。

介護・障がい者・子育て関連事業者については、直近の電気・ガス・ガソリン他燃料費・食材費等の物価高騰想定額を概算で支払い、年度末に実際の高騰分を前年比で算出して、上限に満たなければ返金してもらう仕組み、一方、商工業者については、市内に店舗か営業所があり、8/1 時点で事業を継続して経費が発生していさえすれば、個人事業主は一律5万円、中小企業のうち小規模事業者は一律10万円、その他は一律30万円が支給され、用途の報告義務も返還義務もありません。他市の同類の事業で採用されている、売上げが20%以上減少した等の申告手続きもありません。

つまり、物価高騰の影響を全く受けず、収益増の事業者でも、用途も一切問われず、申請さえすれば一律給付される仕組みとなっているのです。

商工業者の給付事業総額は4億5,637万円。

うち、2億5,398万円は、市民の税金等を積み立てた財政調整基金から取り崩されます。

一律給付の手法はかねてより、損得が生じることから、ばらまきの懸念が問われており、巨額の一般財源を投じることへの不安が拭い去れません。

これ以外にも、9月には、65歳以上高齢者全員に5千円分プリペイドカードが一律給付されることから(総事業費2億8,776万円)一部の市民から「税金のばらまきだ」という声が上がっています。

「ばらまきは、行政の思考停止の表れ」とも言われており、不安定な世情の中で、限られた範囲で繰り返し行われれば、支援格差に疑問を抱く市民の分断を招くおそれもあります。

サラリーマン層も支援の枠組みを！

不安定な世情の影響を受けているのはサラリーマン世帯(給与所得層)も同じです。長期化するコロナ禍、円安、原油高で影響を受けた職種は多岐に渡り、ボーナス減や月給減により、物価高騰分や学費負担を、預貯金を取り崩しながら耐え忍んでいる世帯は珍しくありません。

しかし、一定以上の納税が出来る世帯は、自己責任で乗り切れというのが西東京市の方針だと感じます。その証拠に、中間所得層以上には、18歳未満の子どもが3人以上いない限り、ほとんど何の支援策も無いのです。(今回の物価高騰対策で、子どもが3人以上の世帯に限り、所得制限なしで1世帯10万円を給付)

学生支援も同様で、1人5万円が給付される学生応援事業は、非課税世帯や所得制限のある給付型奨学金の認定者などに対象が絞られ、中間所得層は、たとえ学生が自らの学費を全額バイトで賄っていても対象外なのです。

市の個人市民税約150億円のうち、約7割を負担しているのは給与所得層なのですから、この層を支える視点はあって然るべきです。

急激な給与減等に対する、多様できめ細かな支援の枠組みを構築するために、行政は、思考停止になどなっている場合ではないのです。

活動フォト日記 2022 春～夏

一般質問 3/3.6/7



西原自然公園アースデイ 5/3



イマジン・プロジェクト始動！

AV 新法成立記者会見 6/15



AV 出演被害防止・救済法案の成立に向けて全力を尽くした

防災士議員連絡会総会 4/27



全国地方議会サミット 2022 5/12・13



SNS の利活用について 登壇者と意見交換

多摩都市モノレール建設推進協議会 7/26



建設環境委員長として出席 実家の武蔵村山市の悲願を発言

NEWS TOPICS 議員 15 年表彰



6月15日議員15年表彰を頂きました。長年支えて下さった市民の皆さまに、心から感謝申し上げます。この15年の間、1期目にシングルマザーに、2期目に乳がんサバイバーになりましたが、様々な困難も、西東京市民の皆さまとの温かい絆があったからこそ、乗り越える事が出来ました。今後も、感謝の気持ちを忘れず、市政を身近なものにし、市民の声を丁寧に繋ぐ事に邁進してまいります！

納田さおり 議員 15 周年
オンライン議会報告会

日時: 8月28日(日)
14:00~16:00

申込み saorinohda@gmail.com



コラム SaoRhythm
選挙の安全とは



日本初・女性初
危機管理士1級
防災士
ダブル取得

7/8 演説中の安倍元首相が凶弾に倒れ、ご逝去されるという深刻な事件が発生しました。

選挙は民主主義の根幹であり、安全を絶対のものとしていく事が急務となっていますが、残念ながら課題は多く、私も含め、政治家は危機と常に対峙する可能性がある事を、心に刻んでおくべきなのでしょう。

一方で、貧困と孤立を防ぎ、社会不安を少しでも減らし、政治に信頼を取り戻す事こそが、遠回りであっても、結果的に選挙の安全をもたらすのだと考えています。

Profile

無所属一人会派初 建設環境委員長

1970年生 武蔵村山市出身 乳がんサバイバー

<学歴>

1989年私立東京純心女子高校卒(在学中 生徒会長)
1993年早稲田大学人間科学部人間健康科学科卒(剣道部)
2010年明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科卒

<職歴>

オンワード樫山(総合職)、博報堂(営業補佐)、司法書士補助者
2006年12月西東京市議会議員初当選、現在4期目

<資格>

公共政策修士、危機管理士1級、防災士、剣道3段、
ピンクリボンアドバイザー

<地域活動>

西東京市バレーボール協会会長、西東京市なぎなた連盟会長
西東京稲門会常任幹事、教育系NPO監事
柳沢小青少年育成あしたば会会員

<社会活動>

性暴力被害当事者団体一般社団法人 Spring 幹事

<大学関連>

早稲田大学稲門体育会剣道部代表委員、稲門剣友会常任幹事

<趣味> ヨガ、西東京市産野菜のレシピづくり

<家族> 長女(大学)、次女(専門)、犬スピッツ(白)、猫(黒)

